

丹波篠山の黒大豆栽培

～ムラが支える優良種子と家族農業～



日本農業遺産

令和3年2月認定

兵庫県丹波篠山地域

本地域では、水不足を克服するために稲作をしない犠牲田を設け、湿田での黒大豆の栽培を可能にする「乾田高畝栽培技術」が生み出されました。灰小屋で粗朶や落ち葉を焼いて作る灰肥料の使用や、地域内に多くあるため池には希少な両生類等が生息するなど、農の営みの中で自然環境が守られています。

ムラぐるみの「堀作」



犠牲田を掘り上げて畑地化する「堀作」は、集落での話し合いのもと順番が決められ、協働の風土が生まれました。

伝統方式「乾田高畝栽培」

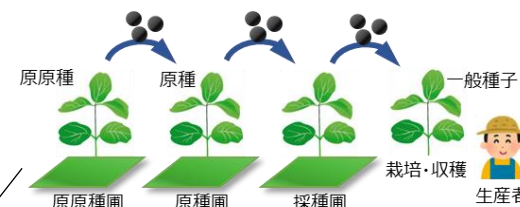


湿潤・重粘土な水田を乾かすために畝を高くする「乾田高畝栽培」は極大粒の黒大豆に適するよう進化を重ね、現在に至るまで受け継がれています。

犠牲田（堀作）から生まれ、受け継がれた栽培技術と協働の風土



優良種子の選抜・生産方式



1871年に波部本次郎が「波部黒」を育種して以来、在来種の中から優良な種子が選抜育種され、現在では農家と行政が連携して持続的な生産を行っています。

300年の歴史



1730年の料理本「料理綱目調味抄」に「黒豆 丹州篠山よし」と記された丹波篠山の黒豆は、300年をのちを経て代表的な黒豆として高く評価され、全国的な広がりを見せています。

日本農業遺産認定による効果

農林水産業

丹波黒の保護と活用

- 高品質の黒大豆を安定的・持続的に生産できるよう、生産者、試験研究機関、県等と連携して、種子の備蓄や耐病性品種の普及などの仕組みづくりを進めている

- 在来系統の遺伝資源の保存システム(種子備蓄): マニュアル作成(R3)→マニュアル精緻化(R5)
- 立枯性病害対策: -(R2)→選抜した系統の品種登録出願・農研機構種苗センターで栽培試験(R5)

黒大豆生産の効率化

- 労働力を補完する生産体制を構築できるよう、栽培機械やICT活用の導入を進めている

- 黒大豆用機械導入経営体数(累計): 45経営体(R1)→57経営体(R5)
- 土壌水分センサー設置箇所数(累計): 3か所(R1)→18カ所(R5)



▲乗用畝成形成管理機の活用

次世代への継承

黒大豆栽培の歴史や技術に関する語り部の育成

- 伝統的な技術や知恵、歴史や暮らしとのかかわりを次世代に伝承していくために、市民への聞き書きを実施。また、聞き書きができる人材(聞き書きスト)を育成するため養成講座を開催。

- 聞き書きをした語り部(累計): -(R2)→2(R5)
- 聞き書きスト養成講座参加者(累計): -(R2)→10(R5)



▲黒豆名人に聞き書き

子どもたちに伝える黒大豆や地域の歴史

- 小学生を中心に、黒大豆栽培の技術や歴史を副読本やマンガで分かりやすく伝えとともに、総合学習などの時間を使って農家や市職員の出前授業を実施。

- 小学生向け副読本に農業遺産を追加: R3より準備、R5制作
- 黒大豆「丹波黒」の総合学習出前講座: -(R2)→小学校2校(R5)



▲小学校での出前講座

人材育成

新規就農者の研修及び受入れ支援

- 後継者を確保するため、JA、市、県が連携し、農業後継者や新規就農希望者を対象とした研修会や新技術習得支援、研修受け入れ農家の斡旋等を実施

- 累計新規就農者数: 16人(R3)→22人(R5)
- 技術習得講座: 年間3講座(R2)→年間4講座(R5)



▲いきいき農村女性オペレータースクール

児童・学生を対象にした黒大豆「丹波黒」の総合学習

- 農業遺産に関する情報発信により、観光体験や農業ボランティア活動、生産物の購入など様々な関わりのきっかけが得られ、地域の魅力を理解し関心をもつ関係人口が増加している

- 関係人口の中からも移住定住の相談が増えている

- 田舎暮らし案内利用者(年間): 70件(R2)→103件(R5)
- 大学と連携した起業講座(イノベーターズスクール)受講者(累計): 156人(R2)→239人(R5)

生物多様性の推進

農業生物多様性に対する理解の醸成

- 生きものの観察会や里山、ため池、農地などが持つ多面的機能に関する研修会の開催
- 生きものに配慮した農業構築物(農都のまほろば水路など)への整備に対する支援

- 環境保全活動支援: 20地区(R2)→27地区(R5)
- 研修会の開催: 年4回(R2～)
- 地域での環境保全組織: 199地区(R2)→202地区(R5)
- まほろば水路整備箇所: 29カ所(R2)→40箇所(R5)



▲農都のまほろば水路

環境配慮型農業の推進

- 生きものや環境に配慮した生産方を推進し、良質な食料の持続的な生産を推進

- 環境配慮型農業の普及面積: 241ha(R1)→332ha(R5)



▲生産者と一緒に生きもの調査を行う